

淡路島 - 自然のちからを活かした緑花 [II]

— 一里の草原を観に行こう! —

2012年3月
兵庫県淡路県民局

まえがき

淡路県民局では、平成 17 年度に「あわじ花回廊計画」や「淡路花博」の理念を継承し、地域住民主体による緑花活動の指針となる“あわじ総合緑花プラン”を策定し、「淡路らしい緑花づくり」「持続可能な緑花づくり」に取り組んでいます。

その取り組みの一つとして、淡路に自生する植物を用いた淡路らしい緑花に関するパンフレットを作成しており、これまで、淡路島が本来もつ自然の姿＝淡路らしい緑花風景を紹介するものや、淡路に自生する植物を活用した花壇づくりを紹介するものを作成してきました。

平成 22 年度からは、淡路島の豊かな自然の宝庫である里地に焦点をあて、第一弾としてその地域の自然植生の力を活かした緑花づくりを紹介する「淡路島ー自然のちからを活かした緑花 [1]」、第二弾となる今回は、里地の身近な自然植生を知るための手法を紹介するパンフレットを作成しました。

淡路の緑花に関わる人々が、自然植生の美しさを発見し、それを日常の緑花活動に採り入れることにより、人と自然の豊かな関係に基づく「環境立島あわじ」の実現につなげていただければ幸いです。

2012年3月

兵庫県淡路県民局長 藤原 道生



家の近所の畦や道ばたに、どんな花が咲くか知っていますか？

近所の畦や道ばたに咲く花を観察してみましょう！

「自然のちからを活かした緑花」に取り組むには、身近な自然を知ることが大切です。

身近な自然を知って、どこで？ どうやって？

このパンフレットでは、そのヒントを紹介します。

◆里の草原を観に行こう

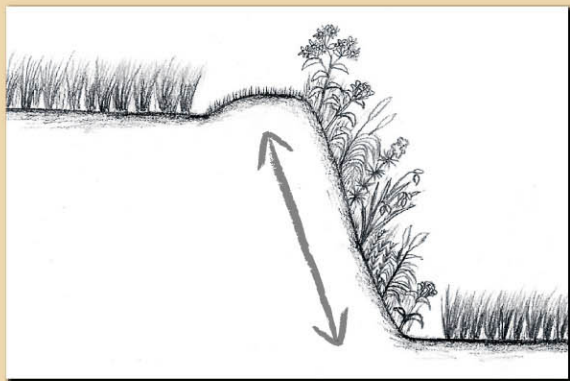
「自然のちからを活かした緑花」は、里地里山の草原をモデルとする緑花のやりかたです。

この緑花を実現するには、里地里山の草原や植物のことをいろいろ知らなくてはなりません。たとえば、生えている植物の名前を知り、それが外来種か昔からあるものか、見分けられなくてはなりません。

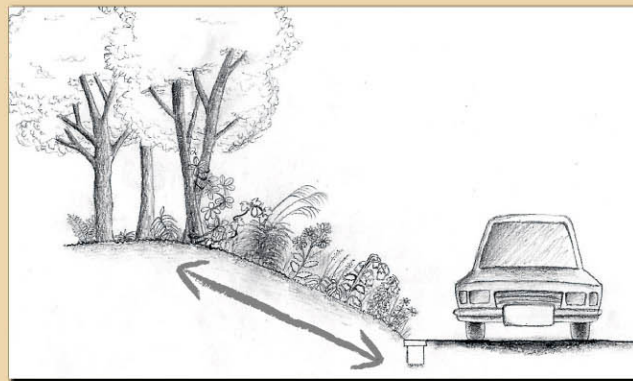
草原を知るはじめての一步、里の草原に草花ウォッチングに出かけましょう。

◆^{あぜ}畦や林縁の草原は野草の宝庫

^{あぜ}畦（コセ）や林縁（例えば、道路と林の境界部）では、ときどき草刈りがおこなわれます。このため、木や竹が取り除かれ、草はら・草むらになります。畦の草はらを“半自然草原”、林縁の草むらを“ソデ群落” これらをひっくるめて、このパンフレットでは「草原」と呼ぶことにします。



畦の半自然草原



林縁のソデ群落

◆いい草原、よくない草原とは？

「自然のちからを活かした緑花」の参考にするのなら、「いい草原」を観察すべきです。

いい草原

- ・在来の草原生植物がいろいろ生えている。
- ・外来種はほとんど無いが、少ない。
- ・ヤブになっていない。

よくない草原

- ・在来の草原生植物が乏しい。
- ・外来種が主体となっている。または、草丈 2m ほどのヤブになっている。

近年、いい草原が減り、よくない草原が増えています。淡路島らしい自然と景観をとりもどすためには、緑花によって“いい草原”を再生することも必要です。



スズシロソウ

(アブラナ科・多年草)
林縁などで4月頃に開花。
島の北部に多い。



ホタルカズラ

(ムラサキ科・多年草)
林縁などで4月頃に開花。
島の北部に多い。



ウツボグサ

(シソ科・多年草)
畦の草原などで6月頃開花。



ノアザミ

(キク科・多年草)
畦の草原などで初夏から夏に開花。

◆いい草原はどこにある？

いい草原は、つぎの条件がそろうところによく残っています。

- ・古い地面が残っている。
(近年の大規模な土地造成がおこなわれていない。)
- ・年に1～数回、草刈りがおこなわれている。

このような場所にいい草原が残され、在来の草原生植物が命をつないでいます。

一方、道路工事や圃場整備ほじょうなどの大規模な土地造成が行われた場所では、外来種が増えて、在来の草原生植物が少なくなります。また、草刈りがおこなわれなくなってヤブのようになった場所では、植物の種数が極端に少なくなります。

さて、いい草原はどこにあるでしょう？

●圃場整備ほじょうがおこなわれていない畦

未整備の畦には、ウツボグサやアキノタムラソウをはじめ、多様な草原生植物が生えるいい草原が残っています。近年、未整備の棚田は徐々に少なくなっており、保全がもとめられる生態系のひとつとなっています。

未整備の畦は地形に沿ってカーブしています。圃場整備をした畦はまっすぐなので、簡単に見分けがつかず。



未整備の棚田の畦

●少し古めの道路のそば

近年の拡幅や付け替え工事の影響を受けていない道路では、道路と林の間に良好なソデ群落がみられることがあります。このような場所は、ホタルカズラやシマカンギク、センニンソウなど、林縁生の草やつる植物が豊富です。



路肩では草刈りが行われ、草原が維持される。

●伝統的なお墓

淡路島には、埋め墓うめぼと詣り墓まひを別々に設ける埋葬文化がありました。埋め墓は道路整備や圃場基盤整備の際に造成をまぬがれることが多く、古い地面がよく残されています。また、お墓では今日でも丁寧な草刈りがおこなわれていることが多いようです。このため、伝統的な墓地には草原がよく残っています。



ミヤコグサ咲き乱れる墓地の草原



センニンソウ

(キンポウゲ科・多年生つる植物)

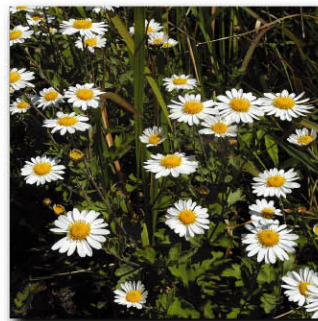
林縁などで夏に開花する。



アキノタムラソウ

(シソ科・多年草)

畦の草原などで夏～秋に開花する。



リュウノウギク

(キク科・多年草)

畦の草原などで秋に開花する。

ノジギクとよく似ている。



シマカンギク

(キク科・多年草)

林縁などで秋に開花する。

◆草原を楽しく観察するヒント

1. フィールドを決め、月イチで通おう

家の近くの「いい草原」1～2ヶ所を自分のフィールドに決めます。1ヶ月に1回のペースでフィールドに通い。その時々花を咲かせている植物を調べて記録します。

同じフィールドに繰り返し通うことで、草原と人間の関係や、草原生植物の生きざまが見えてきます。

※調べても分からない植物は、兵庫県立淡路景観園芸学校（0799-82-3131）や兵庫県立人と自然の博物館（079-559-2001）に質問してみましょう。その際、植物の写真や標本が必要です。また、博物館や景観園芸学校が開催する観察会や講座に参加して、自然や植物について学ぶこともオススメです。



畦や墓地で観察するときは、持ち主の方にあいさつをして入らせていただきます。

2. いるものは、図鑑とノートとデジタルカメラ

植物図鑑 : フィールド向けのハンディ図鑑がオススメ。自分の図鑑を持つと観察が何倍も楽しくなります。

ノート : 手帳のようなサイズが便利。「日付」「場所」「観た植物の名前」などをメモします。

デジタルカメラ : 植物の写真を撮る時は、「花のアップ」「植物全体」「葉っぱ」「生えている環境」の4枚セットで撮っておくと、あとから名前を調べるときに便利です。



3. フロラリストをつくろう

ある一定の範囲に生えている全ての植物をまとめた表をフロラリスト（植物相リスト）といいます。観察した植物をひとつの表にまとめましょう。1年つづけるとそのフィールドのフロラリストがあらかた完成するでしょう。リストの掲載種が増えていくのは励みになります。

また、花やタネを観察した時期をフロラリストに書き添えて、花暦・タネ暦をつくりましょう。完成すれば、花がたぎつぎに咲き替わる様子がよくわかるでしょう。結実の時期を整理しておけば、緑花のためのタネ採りの参考にできます。



4. 草刈りの時期と回数を記録しよう

草原は草刈りによって維持されています。また、生える植物は、草刈りの季節や回数によって違ってきます。フィールドで何月に草刈りがおこなわれているかをメモしておく、緑花後の管理方法を考える際に役立ちます。



8月××日、今年2回目の草刈り...

あ と が き

淡路に自生する植物を用いた“淡路らしい”緑花を考える際に、園芸手法では対応することが難しい里地の畦畔や道路沿いなどでは、その地の自然植生の力を活用した緑花を考えていく必要があります。そこで、里地で「自然のちからを活かした緑花」の研究を行っている兵庫県立淡路景観園芸学校（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）に原稿作成を依頼しました。

今回は、里地にある“いい草原”を観察する際のポイントやヒントを紹介しました。先に発行した「淡路島－自然のちからを活かした緑花 [1]」と合わせてご覧いただくと、普段見なれた地域に自生する植物による緑花の美しさを発見していただければと思います。

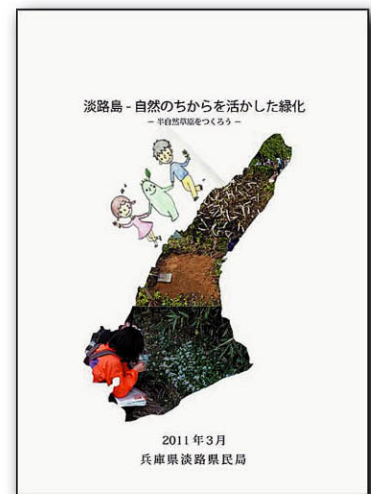
このパンフレットが、淡路島の気候風土にあった自然植生の力を活かした緑花の参考になることを願っています。

◆「淡路島 - 自然のちからを活かした緑花 [1] - 半自然草原をつくろう -」（2011年3月）

[1]では、里地での沿道緑花の方法として、「自然のちからを活かした緑花」を提案しました。これは、“花壇をつくったり花苗を植えたりせず、もともとある野草の草原を保全し活用する”というものです。基本的には“草刈りをする”ことで、緑花をおこないます。

この方法のメリットは、花壇づくりにくらべコストがかからないこと、地域の景観や生物多様性の保全に繋がることがあげられます。ただし、花壇ほどの華やかさを演出するには向いていません。この方法の目的は、（花壇にくらべると地味ですが）里の景観になじんだ趣きある草原をつくることです。

詳しくは、「淡路島 - 自然の力を活かした緑花 [1]」をごらんください。



文・写真： 澤田佳宏（兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）

イラスト・デザイン：久野航・福田裕子（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）

発行： 兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所まちづくり課

tel 0799-26-3213

（本書掲載の記事・写真について無断転写・複製を禁じます。）